

<p>【人材の養成に関する目的】</p> <p>■文学部 文化現象の総合的理解およびその継承を基本理念とし、その実現のために、少人数教育を基本とする教養教育および専門教育との適切な調和を考慮したきめ細かなカリキュラムによって、問題発見能力および多面的な分析能力の伸長を図ること、ならびに言葉を通して形づくられた人間、歴史および社会の多様なあり方を考究し、共感を持って他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力を涵養することによって、社会的な活動を自律的に展開するための基礎を構築することを目的とする。</p>	<p>■国際文化学科 1 歴史・地域文化研究、文化人類学及び国際関係研究にまたがる専門科目を学びつつ、世界に関する広い知見と深い教養を修得させるとともに、情報収集・分析能力、さらには国内外で通用するコミュニケーション能力を育てる。歴史と文化を視座としながら、世界を時空的な広がりの中で理解し、グローバル化のなかで複雑さを増す現代、さらには未来と向き合う柔軟な力を涵養する。 2 世界や社会が直面する諸課題に柔軟に対処でき、かつ、異文化理解の実践を通じて文化間の架け橋となりうる自律的な人材を養成する。</p>
<p>【ディプロマ・ポリシー（DP）】 文学部国際文化学科は、大学全体の学位授与方針に基づき、「専門分野の知識・技能の修得」「教養の修得」「課題の発見と解決」「表現力、発信力」「多様な人々との協働」「自発性、積極性」の各項目に関して、以下の基準に到達するように編成された教育課程において、所定の単位を修得した者に対して学士（文学）の学位を授与します。</p>	
<p>【専門分野の知識・技能】 （DP1-1）国際文化学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。 （DP1-2）日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している。 （DP1-3）日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる。 （DP1-4）文化人類学の基本的な理論、概念、及び方法論として重要なフィールドワークの手法を修得し、自ら課題発見をして異文化理解と異文化間コミュニケーションに応用することができる。 （DP1-5）国際関係研究の基本的な諸概念や理論枠組みを把握し、それらを用いて世界情勢の主要問題を分析することができる。</p>	<p>【課題の発見と解決】（情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考） （DP3-1）課題の本質を発見するために必要な情報（文献、統計等を含む）を調査収集し、それらを的確に解釈・分析し、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付けている。 （DP3-2）書籍、雑誌、新聞、インターネット等の多様なメディアにおいて、取得できる知見やデータの所在、種類等を熟知し、必要なときに必要な情報を入手することができる。 （DP3-3）日本を含む世界の諸文化や諸課題に関し、時間的及び空間的に幅広いデータを調査収集し、それらを分析しつつ、的確な解釈を行うことができる。</p> <p>【表現力、発信力】 （DP4-1）自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明瞭に発信できる豊かな表現力を身に付けている。 （DP4-2）日本を含む世界の国・地域・文化の状況、それらの歴史的成り立ちや相互関係について、広く社会に発信する力を身に付けている。 （DP4-3）日本を含む世界の諸文化や諸課題に関する理論的、実証的な分析を、わかりやすく文章や図表にまとめることができる。</p>
<p>【教養の修得】（広い視野での思考・判断） （DP2-1）人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる。 （DP2-2）日本を含む世界の諸文化や諸課題に関し、学科教育の基盤をなす諸学問分野の視点を組み合わせ、必要に応じさらに幅広い分野の知見を加えて、学際的かつ総合的に理解する力を備えている。</p> <p>【多様な人々との協働】（コミュニケーション＋協調性＋チームワーク） （DP5-1）多様な人々と協働して課題解決に取り組んだ経験を通じて、多様な価値観を受容し、協調性やコミュニケーション力を身に付け、チームの中で自分の役割を的確に果たすことができる。</p> <p>【自発性、積極性】 （DP6-1）学びで獲得した知識・技能を、様々な活動（正課・正課外や学内・学外を問わず）において自発的・積極的に活用した経験を有している。</p>	

※ 全学共通科目については、「全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）：学修・教育目標（科目グループ別カリキュラム・フロー）」を参照。

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標	1年次 配当科目・単位数		2年次 配当科目・単位数		3年次 配当科目・単位数		4年次 配当科目・単位数		
			第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム	第5ターム	第6ターム	第7ターム	第8ターム	
1 専門科目											
必修科目	演習系科目	1-1 3-1 4-1 5-1	ディプロマ・ポリシー「③」に掲げる能力を身につける。	入門演習Ⅰ②	入門演習Ⅱ②	基礎演習②	探究演習②	演習Ⅰ②	演習Ⅱ②	演習Ⅲ②	演習Ⅳ②
				国際文化英語演習②【前期または後期のいずれかに履修】						卒業論文⑧	
選択必修科目	国際関係科目	1-1 1-5	国際文化、国際関係、国際協力に関する基本的な学修を通じて、基礎学力を身につける。	国際関係論入門② 平和学入門②		国際文化論② 国際政治経済学② 国際協力論② 国際関係の歩み②		国際関係論特講A② 国際関係論特講B② 平和学特講A② 平和学特講B② 外交政策論②			
	文化人類学科目	1-1 1-4	人類の社会的・文化的側面を学修することを通じて、異文化を理解するための視点と考察力を身につける。	文化人類学入門Ⅰ② 民族文化論②		文化人類学入門Ⅱ② フィールドワーク論②		文化人類学特講Ⅰ② グローバル化の人類学② 現代人類学②			
	歴史・文化研究科目	1-1 1-3	ヨーロッパ、アメリカ、日本およびアジアの歴史と文化の学修、比較文化学的手法等を学修することにより、異文化を理解するための視点と考察力を身につける。	歴史学入門② ヨーロッパの歴史と文化A② ヨーロッパの歴史と文化C② アメリカの歴史と文化A② 日本の歴史と文化A② アジア・太平洋の歴史と文化A② アジア・アフリカの歴史と文化A②		ヨーロッパの歴史と文化B② ヨーロッパの歴史と文化D② アメリカの歴史と文化B② 日本の歴史と文化B② アジア・太平洋の歴史と文化B② アジア・アフリカの歴史と文化B②		古典文化研究A② 古典文化研究B② 地域文化研究A② 地域文化研究C② 地域文化研究D②		ヨーロッパ文化・文化史特講A② ヨーロッパ文化・文化史特講B② アメリカ文化・文化史特講A② アメリカ文化・文化史特講B②	
					日本文化・文化史特講A② 日本文化・文化史特講B②		アジア文化・文化史特講A② アジア文化・文化史特講B② アジア文化・文化史特講C② アジア文化・文化史特講D②				
選択科目	広域科目	1-1	具体的な言語・宗教・芸術等を学際的な広い視点から学修することにより、柔軟性と応用力を身につける。	世界の言語文化② 世界の宗教文化② 国際文化研究A② 国際文化研究B② 世界美術史② 日本美術史A② 社会学入門②							
	広域基礎科目	2-1 2-2	教員免許状（中学社会、高校地理歴史・公民）の取得のために必要な地理、歴史、政治学の概略を学ぶ。	日本史概論Ⅰ② 日本史概論Ⅱ② 世界史概論Ⅰ② 世界史概論Ⅱ② 人文地理学② 自然地理学② 地誌学② 現代の政治学②							

科目グループ	主なDP	科目グループの学修・教育目標
--------	------	----------------

2 自由設計科目（選択科目）

文学部 共通科目	トピック・セミナー	2-1	テーマに沿ったいくつかのトピックを取り上げた学修を通じて、専門への基盤となる幅広い素養を身につける。
	ことばの世界	2-1	古典語の学修を通じて、語学力を磨き、異文化に対する理解を深める。
	文学部学際発展科目	2-1	多様性と社会的包摂に関する科目等を通じ、共生の時代を生きるための教養の修得する。
	デジタル・ヒューマニティーズ科目	2-1	人間とテクノロジーとの共生について、人文と工学の両面から考察を行う。
	芸術文化行政コース開設科目	5-1 6-1	行政による芸術文化支援について学修し、芸術文化振興の担い手として必要とされる知識と能力を身につける。
	日本語教員養成コース開設科目	4-1 6-1	外国人に対して日本語を教授するために必要な言語としての日本語をめぐる知識および日本語教授法の実践について学修する。
	文学部総合講義	2-1	外部機関との連携等による講座を通じて、幅広い教養を身につける。
複合・学際科目	教職課程の各教科の指導法に関する科目	-	-
	Global Studies 科目	2-1 3-1 4-1 5-1 6-1	高い英語力を備え国際的な活動に関心のある学生を対象とした全学的な成蹊グローバル教育プログラム（GSP）の科目であり、グローバル市民として国際性と学際性の高い知見と教養、ビジネスや実社会で求められる主体性及び実践的なスキルを養う。
	全学共通科目 超過単位	-	各科目グループ、全学共通科目の規定の単位数を超えて修得した単位、他学科科目、他学部科目の履修、他大学との単位互換制度で修得した単位を卒業のための単位として認めるための区分であり、学生自身の興味や将来の目標などに応じて、長期的な履修計画を立てながら有効に活用することができる。
	他学科・他学部・他大学	-	（他学科の専門科目、他学部の専門科目および単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位）

1年次 配当科目・単位数	
第1ターム	第2ターム

2年次 配当科目・単位数	
第3ターム	第4ターム

3年次 配当科目・単位数	
第5ターム	第6ターム

4年次 配当科目・単位数	
第7ターム	第8ターム

トピック・セミナーA②	トピック・セミナーB②	トピック・セミナーC②	トピック・セミナーD②	トピック・セミナーE②	トピック・セミナーF②
ラテン語② 古典ギリシア語②					
文学部学際発展科目A②	文学部学際発展科目B②	文学部学際発展科目C②	文学部学際発展科目D②	文学部学際発展科目E② 文学部学際発展科目F②	
AIと創作②	機械翻訳概論②	デジタルアーカイブ概論②	AIと倫理②		
文化政策学②	アート・アドミニストレーション②	地方自治体の文化行政②	文化政策と法②	舞踊論②	アート・ジャーナリズム②
			上演芸術論②	芸術文化行政特講A②	芸術文化行政特講B②
			制作実習A②	制作実習B②	制作実習C②
			制作実習D②	制作実習E②	制作実習F②
日本語教育概論②	日本語教育方法論②	日本語教育理解と実践②	日本語教育事情②	言語学講義（言語と社会）②	日本語の学習と習得②
日本語教授法②		日本語教育演習②		日本語の構造② 対照言語学②	
				日本語教育実習①	
文学部総合講義A②	文学部総合講義B②	文学部総合講義C②	文学部総合講義D②	文学部総合講義E②	文学部総合講義F②
				英語科教育法Ⅰ② 国語科教育法Ⅰ② 社会科・地理歴史科教育法② 社会科・公民科教育法②	
				英語科教育法Ⅱ②	英語科教育法Ⅲ②
				英語科教育法Ⅳ②	国語科教育法Ⅱ②
				国語科教育法Ⅲ②	国語科教育法Ⅳ②
				社会科教育法A②	社会科教育法B②
				地理歴史科教育法②	公民科教育法②
Topics in Business② Japanese Economy② Topics in Political Studies② Regional Studies② Law in Society② Japanese Contemporary Issues②					
Topics in Japanese Culture② Topics in History② Science and Technology② Japanese Popular Culture② Japanese Art② Japanese Linguistics②					
Language and Literature② Phonetics and Phonology② Geography② Climate and Nature② Global Career Design② Special Seminar②					
（全学共通科目の所定の単位を超過して修得した単位：外国語科目についてのみ卒業に必要な単位数に算入。）					
（他学科の専門科目、他学部の専門科目および単位互換制度による他大学開講科目で修得した単位）					